

MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(2)
~Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価~

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）

金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、柴田恵、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人 akta）、市川誠一（人間環境大学）

研究要旨

本研究は、CBO・akta が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することによって、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査期間は平成 27 年 7 月および 10 月。7 月は新宿二丁目内の BAR などの商業施設、10 月はコミュニティセンターakta に来場した人に対してリクルート用カードを配布した。7 月の BAR 調査 85 件および来場者調査 95 件に、昨年度調査の 148 件を加えて計 328 件を分析対象とした。「CBO による予防啓発活動はコミュニティの仲間がやっている活動だと感じる」など、CBO 活動に対して共感を持っている人では検査受検行動及びコンドーム使用行動が高かった。「HIV 陽性の人が身近にいると思っている」人では検査受検行動が高いが、コンドーム使用行動や意図に影響が見られなかった。「HIV/AIDS について話をするこタブー感（ためらい）を感じている」人ではコンドーム使用行動が高いが、検査受検行動には影響が見られなかった。CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちに共感（empathy）される HIV/AIDS 予防啓発活動であることが、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していた。

A. 研究目的

これまでのロジックモデルを活用したプログラム評価研究から、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV/AIDS の予防啓発を担う Community-Based Organization (CBO)・akta は新宿二丁目という地域を中心に啓発活動を行うにあたり、大きく 2 つのプロセスを踏んでいることが明らかになっている。まず、新宿二丁目の文化や価値観、文脈といっ

たものを尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員（仲間）としての存在感とコミュニティからの信頼を獲得する。次に、特別な人ではなく自分たちと同じ二丁目の身近な仲間が行っている HIV 予防啓発活動として演出することで、対象が自分たちへのメッセージだと感じて受け入れることによって訴求力の高いメッセージを伝えることである。

本研究は、当該 CB0 が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することによって、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。昨年度試行として検討した CB0 が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」というコンセプトの評価をさらに進め、予防行動との関連性を評価した。平成 26 年度に新宿二丁目の BAR を中心とした商業施設利用者の調査を、本年度も同様の質問票を用いて継続することによって調査協力者を増やして検討を行った。

B. 研究方法

1. 調査の実施

東京の CB0・akta の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バ

図 1、リクルート用カード（表うら）



イセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク（QRコード）を記したカードを配布した（図1）。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、同意の上参加するものとした。

質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。

【取り込み基準】回答は同一 IP アドレス、謝礼送付用メールアドレスの酷似者による回答は初回の回答のみを有効回答とした。

2. 調査期間

平成 27 年 7 月および 10 月。7 月は新宿二丁目内の BAR へリクルート用カードを配布して調査参加者を募った。10 月はコミュニティセンター akta に来場した人に対してリクルート用カードを配布した。

3. 質問項目

年齢、新宿二丁目を訪れる頻度、HIV 感染予防行動、国内旅行と旅行先での性行動、CB0 による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感（5 項目）、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚（4 項目）に関して、選択形式で尋ねた。

コミュニティ感覚は Sense of Community index (McMillan & Chavis, 1986) の日本語版（笹尾ら, 2003）の構成概念を参考に作成した。新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目ではしか得られないものがある（統合とニーズの充足）、新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたい（情緒的結合の共有）の 4 項目について、そう思うからそう思わないまでの 4 件法でたずねた。

4. 分析方法

集計分析には平成 27 年 2 月から 3 月末に同様の質問項目で実施した昨年度の調査データも合算して使用した。質問項目ごとに記述集計を行ない、HIV 予防行動との関連を検討した。

5. 倫理的配慮

本研究の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号 14025-2)。

C. 研究結果

1. 調査参加者の属性

昨年度の有効回答の 148 件に加えて、7 月の BAR 調査 85 件、来場者調査 95 件の 4 か所のリクルートサイトの合計 328 件を分析対象とした(表 1)。いずれのリクルートサイトの参加者も東京および関東の居住者が多数を占めていた。年齢は昨年度(H27 年 3 月)の調査では 30 歳以下が多いのに対して、H27 年度(7 月)調査は広く分布した。3 月調査と 7 月調査の介入店舗群の合計(n=201)における年齢の平均値は 31.1 歳(SD8.5 歳)、未介入店舗利用群(n=32)は 26.0 歳(SD5.6 歳)、コミュニティセンター来場者調査群では 33.4 歳(SD7.4 歳)であった。新宿二丁目への来所頻度が週 1 回以上である人の割合は、BAR 調査介入店舗群でおおよそ 60%であるのに対して未介入店舗群で 47%、コミュニティセンター来場者群では 40%であった。

2. 過去 6 ヶ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況

バーを起点としたリクルートであったため、バー利用が最多である。スマートフォンで利用するゲイ向けアプリを約 7 割が利用していたのに対して、従来型のパソコンからアクセスするタイプの出会い系サイトや SNS の利用割合はおおむね 3 割以下であった(表 2)。

3. HIV/AIDS 予防行動

生涯 HIV 検査受検経験は全体で 77.4%であ

り、これまでの類似の調査と同等の結果であった(表 3)。未介入店舗群が 65.6%と比較的少ないのは年齢が若いことによるものと思われる。過去 1 年間の HIV 検査受検経験は全体で 58.1%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった(金子典代、他: MSM およびゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(1)の報告参照)。一番最近のセックスでのコンドーム使用意図は 51.6%から 71.4%とサンプリングサイトによりばらつきがあるが半数以上の人々がコンドーム使用の意図を持っており、ほぼ同じ割合の人がコンドームを使用していた。

4. CBO 活動の受け入れ

「akta の活動は、特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる」について、「そう思う」「ややそう思う」と回答したのは 61.3%、また「akta のメッセージは自分へのメッセージだと感じる」については 57.6%、「akta のメッセージは HIV や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる」については 62.2%、「新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしている」については 66.8%、「akta の活動に共感する」については 68.6%であった。いずれも 6 割程度の人々が、akta の活動コンセプトに共感的な認知を持っており、コミュニティセンターakta の活動とそのやり方を、共感を持って受け入れていた(表 4)。

5. 新宿二丁目に対するコミュニティ感覚

新宿二丁目というコミュニティに関する認知を 4 項目たずねた。「そう思う」と「ややそう思う」を各質問の該当者として合計した割合を集計した。「新宿二丁目にいると安心感のようなものを感じる(67.4%)」、「新宿二丁目に誇りや愛着のようなものを感じる(59.5%)」、「新宿二丁目でしか得られないものがあると思う(80.5%)」、「新宿二丁目のために何かできることがあれば参加したい(64.9%)」のよ

うにいずれの項目も6割を超える人が新宿二丁目というコミュニティとの結びつきに関する認知を持っており、コミュニティを基盤とした介入の有効性の前提となる「コミュニティ感覚」と呼べるものが存在することが確認された。また、「HIVや性感染症の予防活動に、何らかの形で参加や協力をしたいと思う(61.3%)」、「新宿二丁目にHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う(86.0%)」と、新宿二丁目というコミュニティにおいてHIVに関する予防の必要性を認知しており、それに貢献したいという思いを持っていた。一方で、新宿二丁目にはタブー感(ためらい)がある(34.8%)と、3割を超える人がHIV/AIDSについて話をするにタブー感を持っていたタブー感を持っていた。

6. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、検査受検行動との関連(表5)

CBO活動への共感に関する項目では、CBO活動の共感や受け入れが高いほど生涯検査受検経験および過去1年以内の検査受検経験ともに高いという有意な関連がみられた。これに対してコミュニティ感覚の項目ではほとんど関連が見られなかった。また、過去6か月間に友達や知り合いと、あるいは彼氏や恋人とHIV/AIDSについて話したことがあると答えた人はそれ以外の人に比べて検査受検経験が高かった。さらに、「友達や知り合いに感染している人はいると思うか」に対して、いると思うまたはいると答えた人では生涯受検経験、過去1年の受検経験ともに高かった。

7. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、コンドーム使用との関連(表6)

検査受検行動と比べて、知人や恋人とのHIV/AIDSについての会話経験は、最近のコンドーム使用行動及び使用意図には影響が見られなかった。HIV/AIDSの話をするにタブー感(ためらい)があるにそう思うと答えた人ではコンドーム使用意図および使用割合が高かった。

8. 29歳以下と30歳以上の比較(表7,8)

新宿二丁目への来所頻度に有意差はなかった。ゲイショップ、エロ系SNS、スマートフォンのゲイ向けアプリの利用割合は29歳以下において有意に高く、性的なアクティブ度合いと関連して利用するツールが多いことが考えられる。HIV検査受検場所として保健所で受検したことがある人の割合が、若い人において有意に多かった(表7)。webサイトの充実や検索などからの誘導により、選択肢として一番初めに選択される検査サイトは保健所であることが考えられる。CBO活動への共感、愛着や心理的安全性などのコミュニティ感覚、話をするにタブー感、HIV/AIDS予防啓発活動の必要性の認知については、有意な年齢差は観察されなかった。

D. 考察

HIV陽性の人が身近にいると思っている身近感検査受検行動を上げるが、コンドーム使用行動や意図には影響が見られなかった。また、HIV/AIDSについて話をするにタブー感(ためらい)を感じている人は、コンドーム使用行動と関連するが、検査受検行動には影響が見られなかった。このことは、検査受検行動とコンドーム使用行動が異なる要因の影響を受けていることを示唆している。HIV/AIDS予防行動とひとまとめにはできないことから、検査受検のための予防啓発と、コンドーム使用などのSafer Sexによる予防啓発のそれぞれについて、明確な啓発メッセージを発信していく必要があるものと考えられる。

E. 結論

CBOがコミュニティに根差して訴求力の高いHIV/AIDS予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちがCBOに対して共感(empathy)を持っていることが重要であることがわかった。つまり、当該CBOをコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気

気や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持ち、発信されるメッセージは自分に向けたメッセージだと感じる事が、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していた。CBO は CBO として当該コミュニティの文化や空気感を把握し、それを活動に反映することで、多様なコミュニティの成員から共感を得て、コミュニティの一員として HIV/AIDS 予防啓発の信頼あるメッセージを発信することが期待される。

F. 発表論文等

学会発表（国内）

- 1) 木南拓也、岩橋恒太、荒木順子、佐久間久弘、大島岳、金子典代、本間隆之、市川誠一．コミュニティセンターを起点とするアウトリーチ活動の効果評価 アウトリーチ介入実施店舗と未実施店舗の比較 ．日本エイズ学会、2015 年、東京．
- 2) 本間隆之、岩橋恒太、木南拓也、荒木順子、佐久間久弘、大島岳、金子典代、市川誠一．コミュニティを基盤とした組織(CBO)の受け入れとコミュニティ感覚 コミュニティセンターakta を起点とするアウトリーチの評価 ．日本エイズ学会、2015 年、東京．

表 1. 調査参加者のリクルートサイトと属性

	介入店舗群 (H27年3月)		未介入店舗 群 (H27年3月)		介入店舗群 (H27年7月)		コミュニティセ ンター来場者 調査群 (H27年10月)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
居住地								
北海道東北	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
東京	81	(69.8%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	65	(68.4%)
関東甲信越 (東京を除く)	31	(26.7%)	11	(34.4%)	19	(22.4%)	21	(22.1%)
北陸	0	(0.0%)	1	(3.1%)	0	(0.0%)	2	(2.1%)
東海	2	(1.7%)	1	(3.1%)	1	(1.2%)	2	(2.1%)
近畿	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	5	(5.3%)
中四国	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
九州	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	0	(0.0%)
年齢(5歳階級)								
24歳以下	42	(36.2%)	16	(50.0%)	12	(14.1%)	7	(7.4%)
25-29歳	30	(25.9%)	8	(25.0%)	17	(20.0%)	28	(29.5%)
30-34歳	22	(19.0%)	4	(12.5%)	20	(23.5%)	23	(24.2%)
35-39歳	7	(6.0%)	3	(9.4%)	13	(15.3%)	14	(14.7%)
40歳以上	15	(12.9%)	1	(3.1%)	23	(27.1%)	23	(24.2%)
最近3カ月間の新宿二丁目来所頻度								
月1回以下	28	(24.1%)	11	(34.4%)	18	(21.2%)	34	(35.8%)
2,3週間に1回程度	18	(15.5%)	6	(18.8%)	15	(17.6%)	23	(24.2%)
1週間に1回程度	38	(32.8%)	8	(25.0%)	23	(27.1%)	24	(25.3%)
1週間に2回以上	32	(27.6%)	7	(21.9%)	29	(34.1%)	14	(14.7%)

表 2. 過去 6 か月間の施設やサイトの利用状況

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティー センター来場者 (10月調査) n=95	
	n	%	n	%	n	%	n	%
	過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	106	(91.4%)	23	(71.9%)	76	(89.4%)	72	(75.8%)
クラブ(男性限定)	49	(42.2%)	8	(25.0%)	30	(35.3%)	40	(42.1%)
ゲイショップ	50	(43.1%)	10	(31.3%)	31	(36.5%)	41	(43.2%)
出会い系サイト	31	(26.7%)	6	(18.8%)	22	(25.9%)	26	(27.4%)
エロ系SNS(HuGs や 男子寮など)	18	(15.5%)	6	(18.8%)	6	(7.1%)	6	(6.3%)
ゲイ向けアプリ (Grindr, Jackd, 9mon)	82	(70.7%)	24	(75.0%)	57	(67.1%)	66	(69.5%)
FacebookやTwitter 等のSNS	75	(64.7%)	17	(53.1%)	40	(47.1%)	60	(63.2%)
ゲイ向けサークル	15	(12.9%)	1	(3.1%)	9	(10.6%)	20	(21.1%)
ゲイ向け合コン	12	(10.3%)	2	(6.3%)	4	(4.7%)	8	(8.4%)
ゲイの乱バ	9	(7.8%)	1	(3.1%)	2	(2.4%)	2	(2.1%)
有料のハッテン場	38	(32.8%)	8	(25.0%)	18	(21.2%)	35	(36.8%)
ゲイが集まる銭湯や 施設	25	(21.6%)	7	(21.9%)	19	(22.4%)	25	(26.3%)
野外のハッテン場	13	(11.2%)	0	(0.0%)	6	(7.1%)	11	(11.6%)

表 3.HIV/AIDS 予防行動

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセン ター来場者(10 月調査) n=95		合計 n=328		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
生涯検査受検経験											
なし	25	(21.6%)	11	(34.4%)	20	(23.5%)	18	(18.9%)	74	(22.6%)	
あり	91	(78.4%)	21	(65.6%)	65	(76.5%)	77	(81.1%)	254	(77.4%)	
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)											
なし	45	(40.9%)	14	(48.3%)	28	(35.0%)	40	(47.6%)	127	(41.9%)	
あり	65	(59.1%)	15	(51.7%)	52	(65.0%)	44	(52.4%)	176	(58.1%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用											
不使用/覚えていない	43	(38.4%)	14	(45.2%)	17	(22.1%)	27	(30.0%)	101	(32.6%)	
使った	69	(61.6%)	17	(54.8%)	60	(77.9%)	63	(70.0%)	209	(67.4%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図											
それ以外	46	(41.1%)	15	(48.4%)	22	(28.6%)	29	(32.2%)	112	(36.1%)	
使いたいと思っていた	66	(58.9%)	16	(51.6%)	55	(71.4%)	61	(67.8%)	198	(63.9%)	

表 4. CBO 活動への共感とコミュニティ感覚

	介入店舗群 H27年3月調査 n=116		未介入店舗群 H27年3月調 査 n=32		介入店舗群 (7月調査) n=85		コミュニティセ ンター来場者 (10月調査) n=95		合計 n=328	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
	[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。									
それ以外	51	(44.0%)	17	(53.1%)	23	(27.1%)	36	(37.9%)	127	(38.7%)
そう思う	65	(56.0%)	15	(46.9%)	62	(72.9%)	59	(62.1%)	201	(61.3%)
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	58	(50.0%)	19	(59.4%)	30	(35.3%)	32	(33.7%)	139	(42.4%)
そう思う	58	(50.0%)	13	(40.6%)	55	(64.7%)	63	(66.3%)	189	(57.6%)
[共感3]aktaの活動に共感する。										
それ以外	42	(36.2%)	16	(50.0%)	24	(28.2%)	21	(22.1%)	103	(31.4%)
そう思う	74	(63.8%)	16	(50.0%)	61	(71.8%)	74	(77.9%)	225	(68.6%)
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	51	(44.0%)	18	(56.3%)	29	(34.1%)	26	(27.4%)	124	(37.8%)
そう思う	65	(56.0%)	14	(43.8%)	56	(65.9%)	69	(72.6%)	204	(62.2%)
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	40	(34.5%)	19	(59.4%)	23	(27.1%)	27	(28.4%)	109	(33.2%)
そう思う	76	(65.5%)	13	(40.6%)	62	(72.9%)	68	(71.6%)	219	(66.8%)
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	32	(27.6%)	15	(46.9%)	24	(28.2%)	36	(37.9%)	107	(32.6%)
そう思う	84	(72.4%)	17	(53.1%)	61	(71.8%)	59	(62.1%)	221	(67.4%)
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	39	(33.6%)	18	(56.3%)	30	(35.3%)	46	(48.4%)	133	(40.5%)
そう思う	77	(66.4%)	14	(43.8%)	55	(64.7%)	49	(51.6%)	195	(59.5%)
[コミュニティ感覚3]新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	16	(13.8%)	15	(46.9%)	13	(15.3%)	20	(21.1%)	64	(19.5%)
そう思う	100	(86.2%)	17	(53.1%)	72	(84.7%)	75	(78.9%)	264	(80.5%)
[コミュニティ感覚4]新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	39	(33.6%)	15	(46.9%)	27	(31.8%)	34	(35.8%)	115	(35.1%)
そう思う	77	(66.4%)	17	(53.1%)	58	(68.2%)	61	(64.2%)	213	(64.9%)
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	49	(42.2%)	17	(53.1%)	31	(36.5%)	30	(31.6%)	127	(38.7%)
そう思う	67	(57.8%)	15	(46.9%)	54	(63.5%)	65	(68.4%)	201	(61.3%)
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(66.4%)	19	(59.4%)	51	(60.0%)	67	(70.5%)	214	(65.2%)
そう思う	39	(33.6%)	13	(40.6%)	34	(40.0%)	28	(29.5%)	114	(34.8%)
新宿二丁目にHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	15	(12.9%)	6	(18.8%)	9	(10.6%)	16	(16.8%)	46	(14.0%)
そう思う	101	(87.1%)	26	(81.3%)	76	(89.4%)	79	(83.2%)	282	(86.0%)

表 5. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、検査受検行動との関連

	生涯検査受験経験				p値	過去1年以内の受験経験(陽性者除く)				p値
	なし		あり			なし		検査あり		
	(n= 74)		(n= 254)			(n= 127)		(n= 176)		
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	37	(50.0%)	69	(27.2%)	.000*	53	(41.7%)	47	(26.7%)	.006*
ある	37	(50.0%)	185	(72.8%)		74	(58.3%)	129	(73.3%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	57	(77.0%)	159	(62.6%)	.021*	92	(72.4%)	107	(60.8%)	.035*
ある	17	(23.0%)	95	(37.4%)		35	(27.6%)	69	(39.2%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	51	(68.9%)	90	(35.4%)	.000*	71	(55.9%)	63	(35.8%)	.001*
いる/いると	23	(31.1%)	164	(64.6%)		56	(44.1%)	113	(64.2%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	37	(50.0%)	90	(35.4%)	.000*	53	(41.7%)	58	(33.0%)	.001*
そう思う	37	(50.0%)	164	(64.6%)		74	(58.3%)	118	(67.0%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	41	(55.4%)	98	(38.6%)	.024*	58	(45.7%)	60	(34.1%)	.118
そう思う	33	(44.6%)	156	(61.4%)		69	(54.3%)	116	(65.9%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	33	(44.6%)	70	(27.6%)	.010*	43	(33.9%)	41	(23.3%)	.041*
そう思う	41	(55.4%)	184	(72.4%)		84	(66.1%)	135	(76.7%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	35	(47.3%)	89	(35.0%)	.005*	53	(41.7%)	52	(29.5%)	.043*
そう思う	39	(52.7%)	165	(65.0%)		74	(58.3%)	124	(70.5%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に着け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	32	(43.2%)	77	(30.3%)	.056	44	(34.6%)	46	(26.1%)	.028*
そう思う	42	(56.8%)	177	(69.7%)		83	(65.4%)	130	(73.9%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	23	(31.1%)	84	(33.1%)	.038*	34	(26.8%)	58	(33.0%)	.110
そう思う	51	(68.9%)	170	(66.9%)		93	(73.2%)	118	(67.0%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	28	(37.8%)	105	(41.3%)	.748	44	(34.6%)	76	(43.2%)	.248
そう思う	46	(62.2%)	149	(58.7%)		83	(65.4%)	100	(56.8%)	
新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
それ以外	14	(18.9%)	50	(19.7%)	.589	18	(14.2%)	31	(17.6%)	.134
そう思う	60	(81.1%)	204	(80.3%)		109	(85.8%)	145	(82.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	25	(33.8%)	90	(35.4%)	.884	43	(33.9%)	55	(31.3%)	.422
そう思う	49	(66.2%)	164	(64.6%)		84	(66.1%)	121	(68.8%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	32	(43.2%)	95	(37.4%)	.794	52	(40.9%)	57	(32.4%)	.632
そう思う	42	(56.8%)	159	(62.6%)		75	(59.1%)	119	(67.6%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	51	(68.9%)	163	(64.2%)	.364	88	(69.3%)	109	(61.9%)	.126
そう思う	23	(31.1%)	91	(35.8%)		39	(30.7%)	67	(38.1%)	
新宿二丁目HIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	12	(16.2%)	34	(13.4%)	.451	16	(12.6%)	17	(9.7%)	.185
そう思う	62	(83.8%)	220	(86.6%)		111	(87.4%)	159	(90.3%)	

表 6. コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚と、コンドーム使用との関連

	一番最近のセックスでのコンドーム使用意図				p値	一番最近のセックスでのコンドーム使用				p値
	それ以外		使いたいと思っていた			不使用/覚えてない		使った		
	(n= 112)		(n= 198)			(n= 101)		(n= 209)		
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	41	(36.6%)	55	(27.8%)	.106	33	(32.7%)	63	(30.1%)	.652
ある	71	(63.4%)	143	(72.2%)		68	(67.3%)	146	(69.9%)	
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがある。										
それ以外	69	(61.6%)	131	(66.2%)	.421	64	(63.4%)	136	(65.1%)	.769
ある	43	(38.4%)	67	(33.8%)		37	(36.6%)	73	(34.9%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思う。										
それ以外	52	(46.4%)	75	(37.9%)	.141	45	(44.6%)	82	(39.2%)	.372
いる/いると	60	(53.6%)	123	(62.1%)		56	(55.4%)	127	(60.8%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
それ以外	56	(50.0%)	63	(31.8%)	.002*	49	(48.5%)	70	(33.5%)	.023*
そう思う	56	(50.0%)	135	(68.2%)		52	(51.5%)	139	(66.5%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。										
それ以外	62	(55.4%)	67	(33.8%)	.002*	52	(51.5%)	77	(36.8%)	.011*
そう思う	50	(44.6%)	131	(66.2%)		49	(48.5%)	132	(63.2%)	
aktaの活動に共感する。										
それ以外	45	(40.2%)	50	(25.3%)	.000*	37	(36.6%)	58	(27.8%)	.014*
そう思う	67	(59.8%)	148	(74.7%)		64	(63.4%)	151	(72.2%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
それ以外	57	(50.9%)	60	(30.3%)	.006*	50	(49.5%)	67	(32.1%)	.112
そう思う	55	(49.1%)	138	(69.7%)		51	(50.5%)	142	(67.9%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に着け込んだ活動をしていると思う。										
それ以外	49	(43.8%)	52	(26.3%)	.000*	40	(39.6%)	61	(29.2%)	.003*
そう思う	63	(56.3%)	146	(73.7%)		61	(60.4%)	148	(70.8%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
それ以外	42	(37.5%)	62	(31.3%)	.002*	42	(41.6%)	62	(29.7%)	.067
そう思う	70	(62.5%)	136	(68.7%)		59	(58.4%)	147	(70.3%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
それ以外	44	(39.3%)	81	(40.9%)	.268	46	(45.5%)	79	(37.8%)	.037*
そう思う	68	(60.7%)	117	(59.1%)		55	(54.5%)	130	(62.2%)	
新宿二丁目ですぐ得られないものがあると思う。										
それ以外	24	(21.4%)	37	(18.7%)	.780	27	(26.7%)	34	(16.3%)	.193
そう思う	88	(78.6%)	161	(81.3%)		74	(73.3%)	175	(83.7%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	46	(41.1%)	65	(32.8%)	.560	45	(44.6%)	66	(31.6%)	.030*
そう思う	66	(58.9%)	133	(67.2%)		56	(55.4%)	143	(68.4%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
それ以外	54	(48.2%)	63	(31.8%)	.146	48	(47.5%)	69	(33.0%)	.026*
そう思う	58	(51.8%)	135	(68.2%)		53	(52.5%)	140	(67.0%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をするに、タブー感(ためらい)がある。										
それ以外	77	(68.8%)	124	(62.6%)	.004*	72	(71.3%)	129	(61.7%)	.014*
そう思う	35	(31.3%)	74	(37.4%)		29	(28.7%)	80	(38.3%)	
新宿二丁目HIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。										
それ以外	18	(16.1%)	23	(11.6%)	.278	18	(17.8%)	23	(11.0%)	.098
そう思う	94	(83.9%)	175	(88.4%)		83	(82.2%)	186	(89.0%)	

表7. 年齢別（29歳以下と30歳以上）行動の比較

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p 値
	n	%	n	%	度数	列の N %	
あなたはここ2,3か月の間にどの程度新宿二丁目を訪れましたか。							
月1回以下	46	(28.8%)	45	(26.8%)	91	(27.7%)	.774
2,3週間に1回程度	32	(20.0%)	30	(17.9%)	62	(18.9%)	
1週間に1回程度	46	(28.8%)	47	(28.0%)	93	(28.4%)	
1週間に2回以上	36	(22.5%)	46	(27.4%)	82	(25.0%)	
過去6か月以内に利用した施設							
バー(男性限定)	138	(86.3%)	139	(82.7%)	277	(84.5%)	.380
クラブ(男性限定)	65	(40.6%)	62	(36.9%)	127	(38.7%)	.489
ゲイショップ	74	(46.3%)	58	(34.5%)	132	(40.2%)	.030*
出会い系サイト	41	(25.6%)	44	(26.2%)	85	(25.9%)	.907
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	25	(15.6%)	11	(6.5%)	36	(11.0%)	.009*
ゲイ向けアプリ(Grindr, Jackd, 9mon)	120	(75.0%)	109	(64.9%)	229	(69.8%)	.046*
FacebookやTwitter等のSNS	93	(58.1%)	99	(58.9%)	192	(58.5%)	.883
ゲイ向けサークル	18	(11.3%)	27	(16.1%)	45	(13.7%)	.205
ゲイ向け合コン	14	(8.8%)	12	(7.1%)	26	(7.9%)	.590
ゲイの乱パ	8	(5.0%)	6	(3.6%)	14	(4.3%)	.522
有料のハッテン場	51	(31.9%)	48	(28.6%)	99	(30.2%)	.515
ゲイが集まる銭湯や施設	43	(26.9%)	33	(19.6%)	76	(23.2%)	.121
野外のハッテン場	15	(9.4%)	15	(8.9%)	30	(9.1%)	.889
生涯検査受検経験							
なし	45	(28.1%)	29	(17.3%)	74	(22.6%)	.019*
あり	115	(71.9%)	139	(82.7%)	254	(77.4%)	
過去1年以内の受検経験(陽性者除く)							
	n=153		n=150		n=303		
なし	60	(39.2%)	67	(44.7%)	127	(41.9%)	.336
あり	93	(60.8%)	83	(55.3%)	176	(58.1%)	
過去1年に受検した場所							
	n=93		n=83		n=176		
南新宿検査相談所	21	(22.3%)	17	(20.0%)	38	(21.2%)	.395
保健所	49	(52.1%)	35	(41.2%)	84	(46.9%)	.042*
臨時検査	13	(13.8%)	7	(8.2%)	20	(11.2%)	.134
病院や診療所	24	(25.5%)	38	(44.7%)	62	(34.6%)	.078
郵送検査	1	(1.1%)	0	(0.0%)	1	(0.6%)	
その他	3	(3.2%)	6	(7.1%)	9	(5.0%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用							
	n=148		n=162		n=310		
不使用/覚えていない	51	(34.5%)	50	(30.9%)	101	(32.6%)	.500
使った	97	(65.5%)	112	(69.1%)	209	(67.4%)	
一番最近のセックスでのコンドーム使用意図(アナルセックスありの人のみ)							
	n=148		n=162		n=310		
それ以外	55	(37.2%)	57	(35.2%)	112	(36.1%)	.717
使いたいと思っていた	93	(62.8%)	105	(64.8%)	198	(63.9%)	

表 8. 年齢別（29 歳以下と 30 歳以上）コミュニティ活動への共感およびコミュニティ感覚

	29歳以下 n=160		30歳以上 n=168		合計 n=328		p 値
	n	%	n	%	度数	列の N %	
[共感1]aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。							
それ以外	63	(39.4%)	64	(38.1%)	127	(38.7%)	.812
そう思う	97	(60.6%)	104	(61.9%)	201	(61.3%)	
[共感2]aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。							
それ以外	74	(46.3%)	65	(38.7%)	139	(42.4%)	.166
そう思う	86	(53.8%)	103	(61.3%)	189	(57.6%)	
[共感3]aktaの活動に共感する。							
それ以外	53	(33.1%)	50	(29.8%)	103	(31.4%)	.512
そう思う	107	(66.9%)	118	(70.2%)	225	(68.6%)	
[共感4]aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。							
それ以外	64	(40.0%)	60	(35.7%)	124	(37.8%)	.424
そう思う	96	(60.0%)	108	(64.3%)	204	(62.2%)	
[共感5]aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。							
それ以外	53	(33.1%)	56	(33.3%)	109	(33.2%)	.968
そう思う	107	(66.9%)	112	(66.7%)	219	(66.8%)	
[コミュニティ感覚1]新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。							
それ以外	54	(33.8%)	53	(31.5%)	107	(32.6%)	.671
そう思う	106	(66.3%)	115	(68.5%)	221	(67.4%)	
[コミュニティ感覚2]新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。							
それ以外	66	(41.3%)	67	(39.9%)	133	(40.5%)	.801
そう思う	94	(58.8%)	101	(60.1%)	195	(59.5%)	
[コミュニティ感覚3]新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。							
それ以外	32	(20.0%)	32	(19.0%)	64	(19.5%)	.828
そう思う	128	(80.0%)	136	(81.0%)	264	(80.5%)	
[コミュニティ感覚4]新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	60	(37.5%)	55	(32.7%)	115	(35.1%)	.366
そう思う	100	(62.5%)	113	(67.3%)	213	(64.9%)	
新宿二丁目のHIVや性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。							
それ以外	62	(38.8%)	65	(38.7%)	127	(38.7%)	.991
そう思う	98	(61.3%)	103	(61.3%)	201	(61.3%)	
新宿二丁目では、HIVについて話をすることに、タブー感(ためらい)がある。							
それ以外	101	(63.1%)	113	(67.3%)	214	(65.2%)	.432
そう思う	59	(36.9%)	55	(32.7%)	114	(34.8%)	
新宿二丁目にはHIVや性感染症の予防活動は必要だと思う。							
それ以外	24	(15.0%)	22	(13.1%)	46	(14.0%)	.619
そう思う	136	(85.0%)	146	(86.9%)	282	(86.0%)	